

戸田市立郷土博物館

常設展示学習サポート

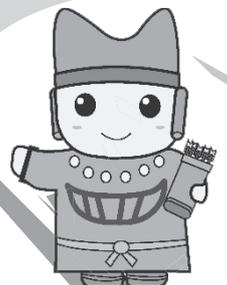


博物館の展示を見学するときのお約束

- ・ ゆっくり歩いて、静かに見学してください。
- ・ 展示されている資料や展示ケースには、さわらないでください。
- ・ メモを取るときは、必ずえんぴつを使用してください。
消しゴムは消しカスが資料につくと困るので、使わないでください。



生涯学習課文化財ゆるキャラ
はにこちゃん



生涯学習課文化財ゆるキャラ
はにわくん

戸田市立

小学校

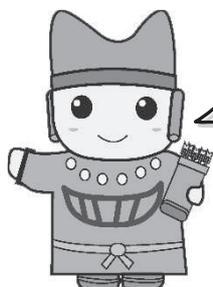
氏名

年

組

戸田市立郷土博物館へようこそ！

生涯学習課文化財ゆるキャラ「はにわくん」と「はにこちゃん」の案内で郷土博物館の常設展示を見学しよう。

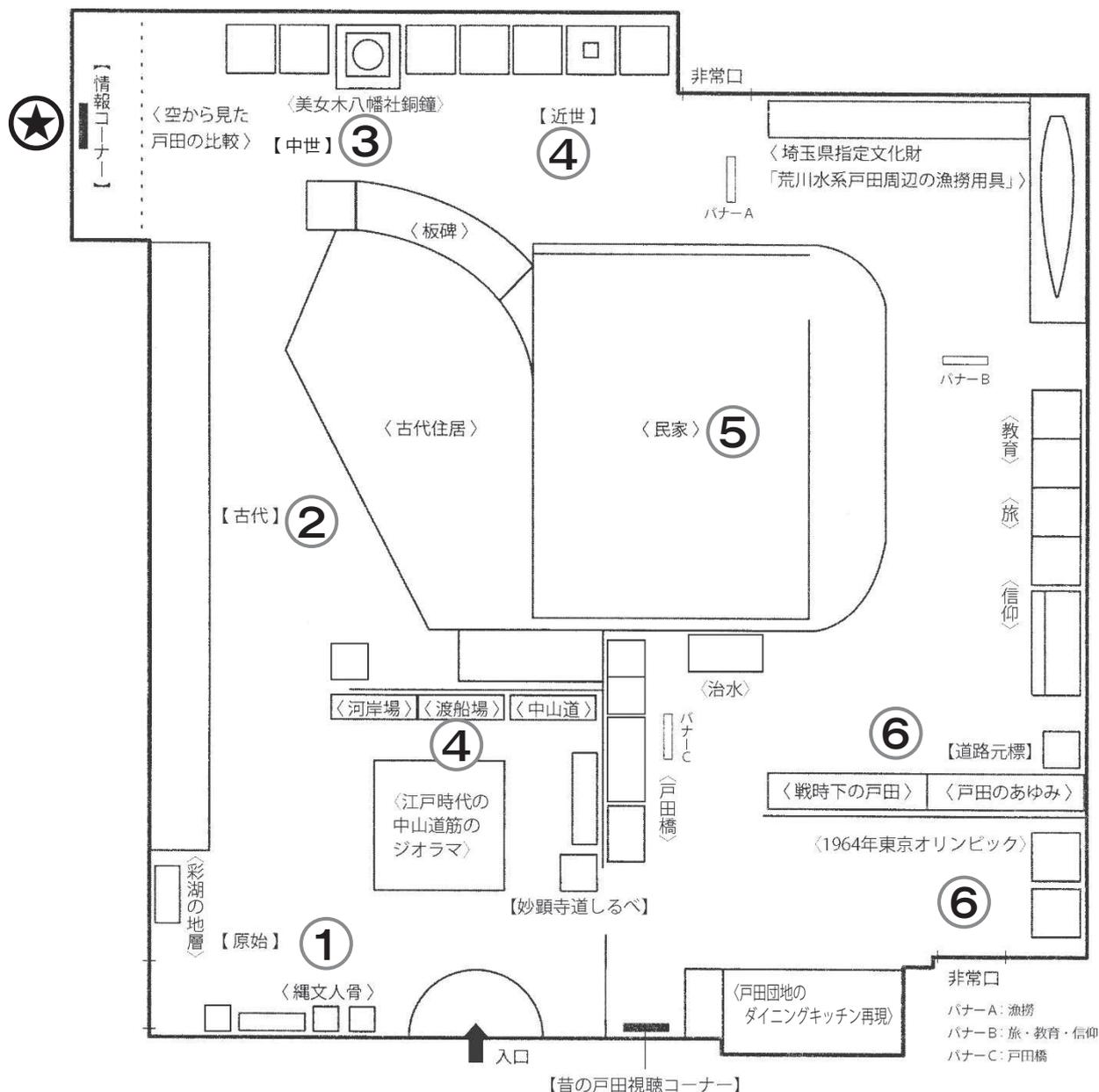


はにわくんです。
いっしょに常設展示を見ていこう。
学芸員さんにいろいろ質問してみるのもいいよ。



はにこちゃんです。
分かったことや疑問に思ったことなどをメモしてね。
情報コーナー★の映像も見るといろいろ調べられるよ。

常設展示室配置図

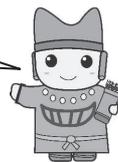


1

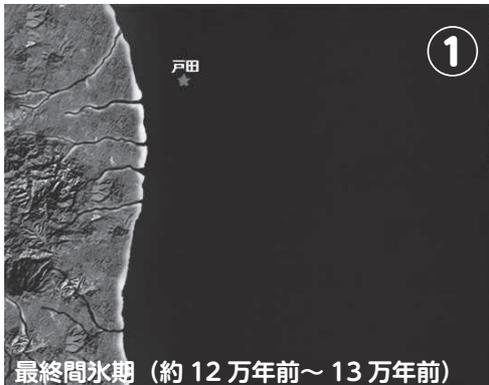
戸田のおいたち

見学のポイント

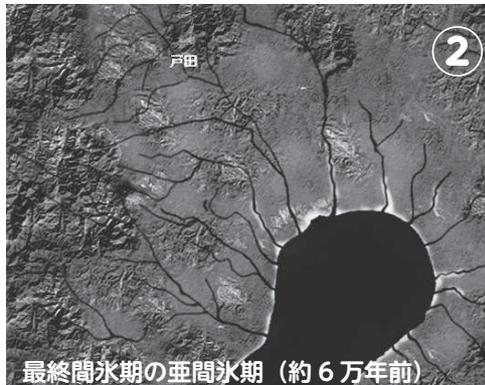
大昔の戸田周辺はどんな地形だったのか、注目して見てみよう！



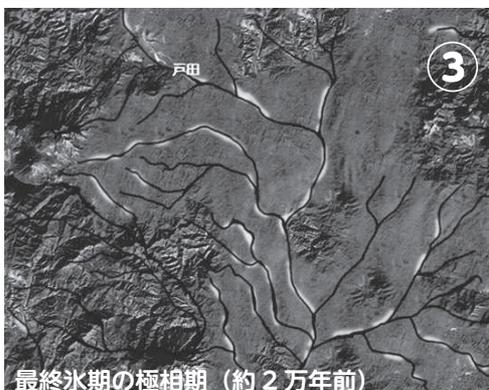
◆大昔の戸田周辺の地形



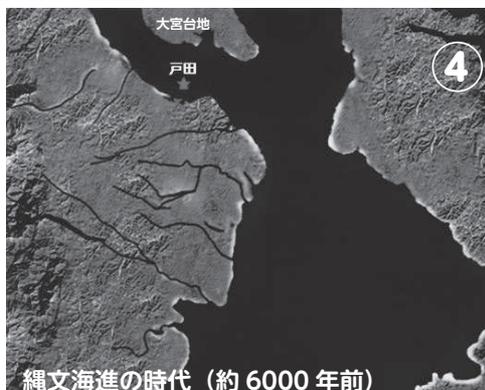
最終間氷期（約12万年前～13万年前）



最終間氷期の亜間氷期（約6万年前）



最終氷期の極相期（約2万年前）



縄文海進の時代（約6000年前）

大昔、寒冷で氷におおわれた氷期と温暖な間氷期とが交互におとずれ、それともなって起こる海退と海進によって戸田の周辺は陸地と海の時代をくり返し、堆積してできた地面を川が浸食して、今の地形がつくられていきます。

温暖な気候の影響によって海水面が上昇し、約6000年前（縄文時代前期）には海水面が現在よりも2～3m高くなり、現在の川越や栃木県近くまで海が浸入しました。戸田周辺は上図4にあるとおり、東京湾の入り江となっていました。現在の埼玉県南部の低地は海で、大宮台地が半島のようになっています。海水面が低下し、陸地化するの約4000年前頃からです。

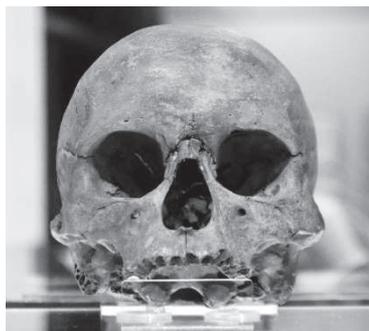
戸田では、旧石器時代や縄文時代の遺跡は見つかっておらず、まだ人が定住できるような環境ではなかったと考えられます。

メモ

縄文人骨は、どこで見つかったものでしょう？

この人骨からどんなことがわかりますか？

縄文人骨のほかにも、大昔の戸田周辺の様子が分かる資料はありましたか？



縄文人骨

2

弥生時代～平安時代の戸田

見学のポイント

戸田に人が住み始めたのは、いつ頃からかな？
 市内の遺跡からは、どんなものが見つかったりしているかな？
 古代の住居は、どんな様子かな？



◆市内の遺跡分布図

- ① 鍛冶谷・新田(かじや・しんでんぐち)遺跡
- ② 南原(みなみはら)遺跡
- ③ 前谷(まえや)遺跡
- ④ 上戸田本村(かみとだほんむら)遺跡
- ⑤ 根木橋(ねぎのはし)遺跡
- ⑥ 氷川町(ひかわちょう)遺跡
- ⑦ 笹目神社脇(ささめじんじやわき)遺跡
- ⑧ 美女木八幡社脇(びじよぎはちまんしやわき)遺跡
- ⑨ 南町(みなみちょう)遺跡
- ⑩ 道満(どうまん)遺跡
- ⑪ 大前(おおまえ)遺跡

弥生時代になると、それまで荒川低地を流れていた旧利根川・旧荒川が東の中川低地に移り、戸田周辺では旧入間川などの中規模河川が流れるのみになります。そのため、洪水などの心配がなくなり、ようやく人が住める環境になりました。

戸田地域には弥生時代後期(約1800年前頃)から人が住み始めるようになります。その頃の遺跡も含め、市内では現在11カ所の遺跡が確認されています。



古代の展示コーナーには、わたしと、はにわくんも展示されているよ。どこにいるか探してみてね！

メモ 市内の遺跡からは、どんなものが出土していますか？
 出土品からどんなことが分かりますか？

.....

.....

.....

.....



古墳時代の復元住居

メモ 復元された古代の住居には、どんな特徴がありますか？

.....

.....

.....

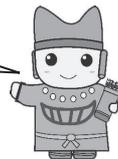
.....

3

かまくら せんごく
鎌倉時代～戦国時代の戸田

見学のポイント

武士の世の中となった鎌倉時代や室町時代、戸田はどんなところだったのか見てみよう！
この頃の人々の信仰をあらわすものには、何があるかな？



◆ 佐々目郷と鶴岡八幡宮

鎌倉時代から戦国時代にかけて、戸田の西部のあたりは佐々目郷と呼ばれていました。

この佐々目郷は、鎌倉時代の終わり頃（1293年）から何回かにわたって鎌倉の鶴岡八幡宮に寄進（※）され、その後約300年間、鶴岡八幡宮の領地として存在しました。

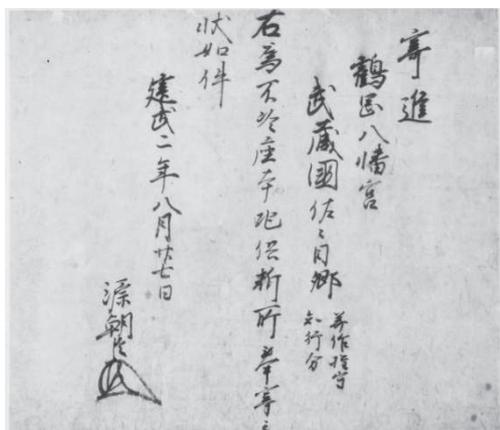
現在でも残っている佐々目郷に関する史料には、美女木、欄宜橋、沼影といった当時の地名が見られます。佐々目郷が現在の荒川下流域の左岸、戸田市西部からさいたま市南西部に位置していたと推定できます。

美女木地区の美女木八幡社（南北朝時代には「新八幡宮」と呼ばれていたと考えられる史料が残っています）は、鶴岡八幡宮の佐々目郷支配の中心であったと考えられています。

なお、豊臣秀吉の時代に作成されたと考えられる史料を見ると、鶴岡八幡宮の全領地のうち、佐々目郷の占める割合は約60%となっていて、佐々目郷は鶴岡八幡宮の経済上重要な領地でした。



※「寄進」・・・貴族などの有力者や寺社に金品や土地などを寄付すること



あしかがたかうじ きしんじょう
足利尊氏寄進状（複製）

メモ

1335年、足利尊氏も佐々目郷を鶴岡八幡宮に寄進しています。
尊氏は、なぜ佐々目郷を鶴岡八幡宮に寄進したのでしょうか？

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

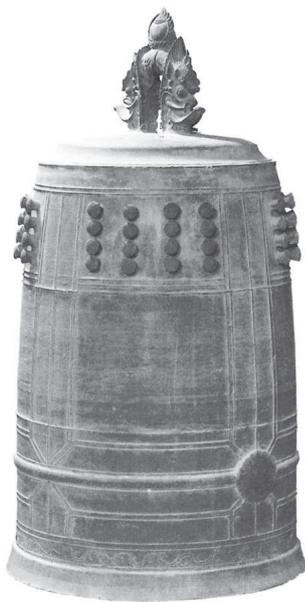
.....

.....



この後は、佐々目郷と関わりが深かった美女木八幡社に伝わる銅鐘についても、見てみよう！

◆ 美女木八幡社の銅鐘



美女木八幡社銅鐘

銘はありませんが、高さが111cm、口径が59cmで全体的にすっきりした姿をしています。

作風から、この銅鐘は鎌倉時代末期から南北朝時代初期にかけて製作されものと考えられ、美女木八幡社がかつて「新八幡宮」と呼ばれていたとされる時期と重なります。

埼玉県指定有形文化財（工芸品）に指定されています。

※郷土博物館で常設展示中

メモ

銅鐘にはどんな伝説があるでしょう？



◆ 人々の祈りと板石塔婆



板石塔婆（板碑）

鎌倉時代から戦国時代の頃を代表する遺物のひとつに、人々の祈りが込められた板石塔婆があります。

板石塔婆は「板碑」とも呼ばれ、おもに鎌倉時代、室町時代に造られた供養塔の一種です。

材料は緑泥片岩（秩父青石）といい、荒川上流の長瀬付近や荒川支流の小川町で産出され、平らに割れやすく彫刻しやすい性質をもっています。

埼玉県内では約2万基が、戸田市内では230基以上が確認されています。

メモ

板石塔婆は、何を目的に造られたのでしょうか？

展示されている板石塔婆を観察し、形や色など気づいたことを書き出してみましょう。

4

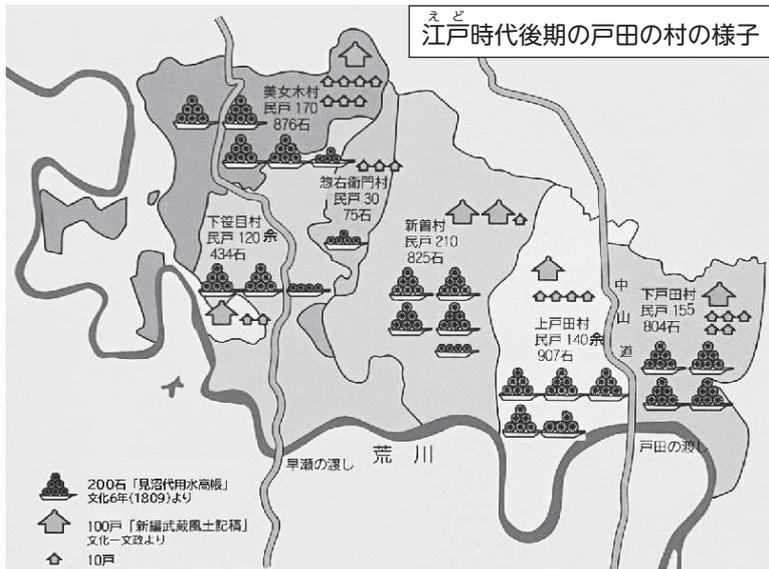
えど 江戸時代の戸田

見学のポイント

江戸時代の村と、現在の戸田市を比べてみよう！
鷹場とは、どんなところだったかな？



◆江戸時代の村



江戸時代、戸田には6つの村がありました。下戸田村、上戸田村、新倉村、惣石衛門村、下笹目村（枝郷の早瀬村も含む）、美女木村の6つで、これらの村は代官の支配する幕府領（直轄領）でした。

村には村役人が置かれ、村を取り仕切っていました。村役人には村長に当たる「名主」、その補佐役としての「組頭」・「年寄」、農民の代表である「百姓代」がいました。

これらを「村方三役」といいます。

メモ

江戸時代にあった6つの村は、現在のどの地域に当たるでしょうか？
村役人は、どんな役割をになっていたでしょうか？

◆戸田と鷹場

将軍家、御三家などの狩猟場を「鷹場」といいます。

鷹場では、飼いならした鷹を使って鳥類や小動物を獲物として狩る「鷹狩」が行われました。鷹場は江戸の周辺に置かれ、戸田の村々は将軍家の鷹場に入っていました。

鷹場に指定された村々は、鳥見役という役人の監督下に置かれ、家屋の建て替えなど日常生活にも規制が加えられました。

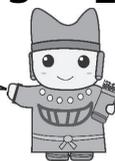
また、狩りの獲物の運搬や、狩りのときに獲物を追い立てる役目、鷹の生餌である小鳥に与えるエサの上納など、多くの負担が求められました。



江戸周辺の鷹場の図

メモ

戸田付近の将軍家の鷹場は、何と（〇〇筋と）呼ばれていたでしょうか？
鷹の生餌に与えるエサとして、どんなものを納めていたでしょうか？



見学のポイント

戸田渡船場・河岸場の模型もじっくり観察してみよう！

◆戸田の渡船場と河岸場

けいさい えいせん とだ がわかしぼ
 溪斎英泉画『戸田川渡場』



重要な街道である中山道と荒川が交差する戸田は、多くの人や物が行き来する交通の重要地点でした。

江戸時代、荒川には橋が架けられず、渡し船が発着する渡船場が置かれ、下戸田村が渡しきの運営を請け負っていました。この戸田渡船場には、46軒の家があり、船役人、水夫、小揚人足として渡しきの仕事を行ったり、旅人相手の店なども開かれていました。

渡船場は、中山道を通る大名や公家たちも利用していました。大名や公家などの通行時には、普段とは違い、大勢の人々が仕事にかり出されて、多くの負担を求められました。

メモ

江戸時代、荒川に橋が架けられなかったのは、なぜでしょうか？
 渡船場を通じた人には、どんな人がいましたか？

かしぼ とせんぼ もけい
 戸田河岸場・渡船場模型



江戸時代、大量の荷物を安い運賃で運べることから、舟運が全国的に発達しました。はじめは年貢米や公用荷物が輸送の中心でしたが、商品荷物の輸送が多くなると、各河川には荷物を積み降ろしする「河岸場」が設けられました。

戸田河岸は、戸田渡船場にあわせて置かれ、荒川の河川舟運の拠点の一つでした。荒川沿いの村々からは、江戸で暮らす人々の食料となる米、麦、雑穀、野菜、醤油や燃料の薪、木炭などが積み出され、江戸からは織物の原料や肥料などが運ばれてきました。

戸田には「戸田」、「早瀬」、「道満」の3カ所に河岸場があり、なかでも戸田渡船場とあわせてあった戸田河岸は、中山道との交差点に当たるため荷物の取扱量が多く、荒川を代表する大きな河岸場でした。

メモ

河岸場で取り扱う荷物は、どんなものでしたか？

戸田渡船場が有名だけど、戸田河岸も規模が大きくてすごかったんだね！



5

戸田の民家とくらし

見学のポイント

復元民家は常設展示室の目玉のひとつだよ！
復元民家の中に入って、じっくり観察してみよう！

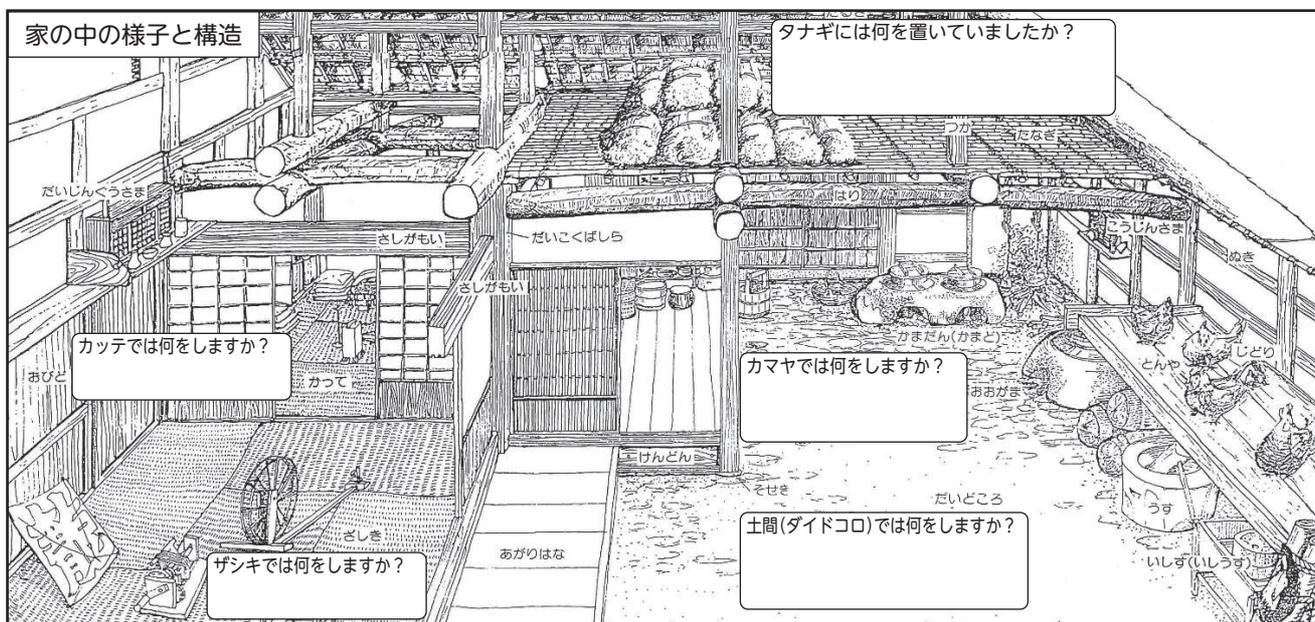
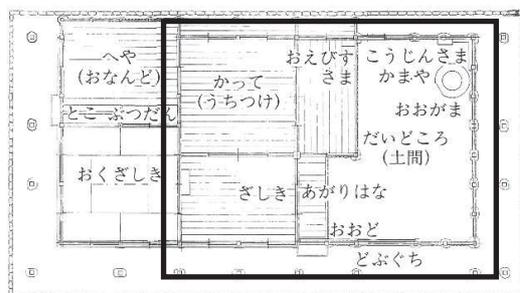


◆復元民家

戸田の民家は、荒川の洪水の経験から微高地を選んで建てられ、家屋の部分にはさらに土盛りをして高くし、水害に備えていました。こうした民家も、昭和30年代以降の急速な都市化や生活様式の変化によって建て替えられ、現在では、ほとんど見られなくなりました。

展示室内の民家は、江戸時代後期頃に建築された旧下戸田村(今の下戸田)の熊木家をモデルに、土間と座敷の一部を復元したものです。

復元部分(太枠内)



屋根は草葺き屋根です。大黒柱にはケヤキ、梁には松、その他は杉が用いられています。

入り口は、ドブグチとかトンボグチといい、くぐり戸付きのオオドと呼ばれる戸があります。中に入ると土間(ダイドコロ)があります。土間の隅には、石臼やとんや(鶏を飼うところ)が置かれました。

奥のつき当りをカマヤと呼び、大釜やかまどがあります。かまどの上には、かまどの神として荒神様を祀りました。ダイドコロの天井部分はタナギといい、竹すのこで出来ていました。

アガリハナを上がった向かって左側の部屋はザシキ、右側の部屋はカッテとかコザといいます。さらに帯戸の奥には、オクザシキ(客間)やオナンド(寝室用の部屋)がありました。オクザシキには仏壇があり、歳神様もこの部屋に吊るして祀られました。

メモ

それぞれの部屋では何をしますか？上のイラストの中に書きこんでみましょう。
復元民家とみなさんの家の様子を比べて、違いなどを探してみましょう。

6

めいじ しょうわ
明治時代～昭和時代の戸田

見学のポイント

戸田橋の架橋、荒川河川改修とポートコース建設、オリンピック開催など、戸田がどんなふうになったか見ていこう！

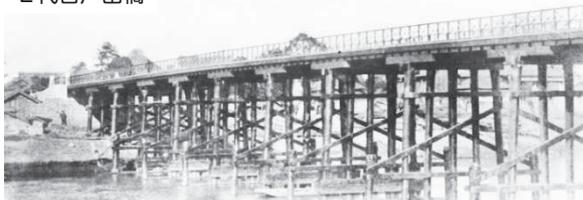


◆戸田橋の歴史

初代戸田橋 (宮内庁書陵部所蔵)



2代目戸田橋



3代目戸田橋



4代目戸田橋



明治時代に入り、荒川に初めて橋が架けられました。中山道の交通量の増加にともない、埼玉県と東京府の間で話し合いが行われ、明治7年(1874)12月に着工、構築費12,600円余りを費やして明治8年(1875)5月に木製の橋が完成し、橋の名前は「戸田橋」と名付けられました。

その後、大正元年(1912)に2代目の木製の橋、昭和7年(1932)に3代目の鉄橋が造られました。さらに、国道17号の交通量増加や鉄橋の老朽化により、昭和53年(1978)に現在の4代目戸田橋が造られました。

メモ

初代戸田橋が架けられた際、橋の名前はなにちなんで名付けられたのでしょうか？
それぞれの戸田橋の工費は、どれくらいかかっているのでしょうか？

◆戸田市となるまで

明治22年(1889)、全国的に町村の合併が行われました。

戸田の村々でも、江戸時代からの6つの村が合併によって3つの村になり、「戸田村」、「笹目村」、「美谷本村」が誕生しました。

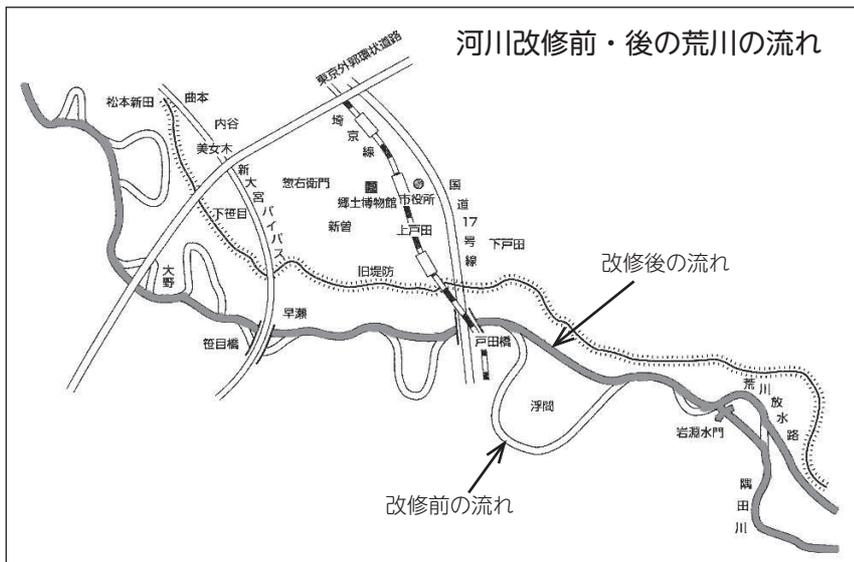
その後、昭和16年(1941)に戸田村は「戸田町」となり、昭和18年(1943)には美谷本村と笹目村が合併して「美笹村」ができました。

そして、昭和32年(1957)に戸田町と美笹村が合併して「戸田町」となり、ほぼ現在の市域が形成されました。昭和41年(1966)には「戸田市」となって、県内24番目の市として出発しました。

戸田市市制施行記念式典



◆あらかわ 荒川の河川改修



のきした つ すいがいよびせん
軒下に吊るされた水害予備船

くねくねと蛇行していた
流れが、まっすぐに近
くなったね。



戸田の西から南側を流れる荒川は、文字どおり「荒れる川」でした。蛇行をくり返して流れる荒川は、大雨が降って増水すると氾濫し、川沿いに住む人々の生活に大きな被害をもたらしました。そのため、戸田の民家では、洪水に備えて「水害予備船」を軒下に吊るしている家もありました。

明治時代の終わり頃に起きた2度にわたる大洪水がきっかけとなり、大正から昭和初期にかけて荒川の河川改修が行われました。改修工事は、蛇行の多い河道を直線に近いゆるやかなカーブにし、河川敷を大きくして川幅を広げ、新しく堤防を築くなど、当時の最新技術を駆使して行われました。この荒川の河川改修工事は、太平洋戦争後の昭和29年(1954)にようやく完成しました。改修とともに、堤外にあった家屋の堤内への移転も行われました。

メモ 戸田の水害の歴史について、調べてみましょう。
戸田の民家では、水害に備えてどんなことをしていたでしょう？

.....

.....

.....

◆戸田と戦争

昭和16年(1941)12月8日、太平洋戦争が始まりました。戦争が始まると、人々の暮らしはだんだんと苦しくなっていきました。食料や衣服、燃料など生活に欠かせない品物も自由に手に入れることができなくなり、配給制となりました。

戦争末期には、戸田橋や高射砲(※)、一般の民家を狙った空襲もあり、昭和20年(1945)8月15日に終戦を迎えるまで、様々な戦禍を受けました。



ひ まる よ が こくみんふく
日の丸寄せ書きと国民服

メモ 戸田の空襲被害について、調べてみましょう。

.....

.....

.....

.....

.....

※「高射砲」・・・航空機を攻撃するために地上に設置された砲

◆ボートコース（戸田漕艇場）とオリンピック

ボートコースと聖火台（1964年第18回オリンピック東京大会当時）



ボートコース（戸田漕艇場）は、荒川の改修工事にあわせて水害対策として実施された三領排水路工事（1935年～1940年）の工事計画の一部を変更して、計画・建設されました。

第12回オリンピック競技大会〔昭和15年（1940）〕の開催地に東京が選ばれ、国内各地での漕艇競技会場の招致合戦の末、昭和12年（1937）に戸田がオリンピックの漕艇競技会場に決定し、建設工事が始まりました。

このオリンピックは日中戦争の激化により開催が返上され、その後中止となりましたが、漕艇場は荒川の治水事業の一環であったため規模を縮小して工事が続行され、昭和15年（1940）に完成しました。

太平洋戦争後になって、第18回オリンピック競技大会〔昭和39年（1964）〕が東京で開催されることに決まると、各地の候補地の中から再び戸田が漕艇競技会場に選ばれ、オリンピックの漕艇競技が開催されました。オリンピック開催にあわせて漕艇場のコース改修工事が行われ、幅90m、長さ2,400m、水深2.5mになりました。

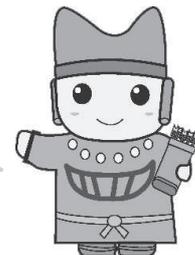
メモ

ボートコースが造られたのは、何のためでしょう？

1964年のオリンピック東京大会では、戸田でどんな競技が行われたでしょう？



博物館は楽しかったかな？
また遊びにきてね！



戸田市立郷土博物館

〒335-0021 埼玉県戸田市大字新曾 1707 番地
電話 048 (443) 5600 FAX 048 (442) 8988